

受託研究成果報告書

恵庭市都市公園の利用実態に関する調査研究

2025年3月

札幌市立大学デザイン学部

椎野 重紀夫

目次

<b>1. 研究の目的と方法</b> .....	<b>5</b>
1-1. 研究目的 .....	5
1-2. 研究方法・研究対象.....	6
<b>2. 研究結果① 都市公園の利用状況</b> .....	<b>10</b>
2-1. アンケート調査と結果のまとめ方.....	10
2-2. 各保育施設の都市公園利用状況 .....	12
2-2-1. No.1 えほんの森（認定こども園） .....	12
2-2-2. No.2 さくら（認定こども園） .....	15
2-2-3. No.3 恵み野幼稚園（認定こども園） .....	18
2-2-4. No.4 柏学園ひまわり幼稚園（認定こども園） .....	21
2-2-5. No.5 恵庭幼稚園（認定こども園） ※No.17 恵庭保育園（地域型保育事業 所）と統合 .....	24
2-2-6. No.6 北海道文教大学附属幼稚園（認定こども園） .....	28
2-2-7. No.7 かしわ幼稚園（認定こども園） .....	31

2-2-8. No.8 クラーク幼稚園（認定こども園） .....	33
2-2-9. No.9 島松幼稚園（認定こども園） .....	36
2-2-10. No.10 第二かしわ幼稚園（認定こども園） .....	38
2-2-11. No.11 恵み野第二幼稚園（認定こども園） .....	40
2-2-12. No.12 幼稚舎えるむ（認定こども園） .....	43
2-2-13. No.13 えにわスマイル保育園（認定こども園） .....	46
2-2-14. No.14 あいおい子ども園（認定こども園） .....	50
2-2-15. No.15 すみれ保育園（保育所） .....	54
2-2-16. No.16 島松いちい保育園（保育所） .....	58
2-2-17. No.18 島松もみじ保育園（地域型保育事業所） .....	61
2-2-18. No.19 しまつスマイル保育園（地域型保育事業所） .....	64
2-2-19. No.20 ぴっころきっず（地域型保育事業所） .....	67
<b>3. 調査結果② 公園利用上の課題.....</b>	<b>70</b>
3-1. 施設の利便性 .....	73
3-2. 安全管理 .....	75
3-3. 衛生管理 .....	79
3-4. 植栽管理 .....	80

3-5. 施設老朽化.....	81
3-6. 周辺環境 .....	82
3-7. その他.....	82
<b>4. 調査・研究のまとめと提言.....</b>	<b>84</b>
<b>5. 謝辞.....</b>	<b>88</b>

## 1. 研究の目的と方法

### 1-1. 研究目的

都市公園は地域における「子育ての場」としての機能を有しており、公園利用を通じて幼児の心身の健全な発達を促す役割を担っている。このような目的達成のためには、計画・設計を行うにあたって、幼児の発達段階の特徴に対応した公園施設の形態や機能についての十分な理解と、これに対応した公園デザインの実現が必要不可欠となる。

本研究はこのような視点から、恵庭市内の保育所、認定こども園、ならびに地域型保育事業所（以下、「保育施設」と称する）が、園外活動の場としてどのように都市公園を利用しているのかを明らかにすることを研究目的とする。特に、幼児は心身の発達とともに公園の利用方法が変化していくことが予測されることから、利用者である幼児の年齢（発達段階）が適切かつ安全に都市公園を利用するためにどのような公園施設が必要とされているのか、その対応関係について解明を試みる。

さらに地域の視点で捉えた場合、ある地域は幼児に利用しやすい都市公園が複数存在している一方で、別の地域では幼児に利用しやすい都市公園が不足している状況も想定される。このような観点から、市内における幼児の利用に対応した都市公園の分布状況を把握する。さらに、公園施設等に関する要望や、公園利用における安全上の懸念事項等についても把握し、子育ての場としての都市公園の利用向上に向けた提案を行う。

### 1-2. 研究方法・研究対象

恵庭市内の保育施設を対象としたアンケート調査ならびにインタビュー調査を行う。またこの結果から利用が確認された都市公園の現地調査を行い、現況の確認と写真撮影を行う。

また、市内における幼児の利用に対応した都市公園の分布状況を GIS（地理情報システム）により把握する。

調査対象とした恵庭市内の保育施設は表 1-1 の通りである。内訳として認定こども園 14 箇所、保育所 6 箇所の合計 20 箇所を対象とした。認定こども園タイプは表 1-2 に示した通りである。また市内の保育施設分布を図 1-1、都市公園分布（162 箇所）を図 1-2 に示した。

表 1-1 調査対象保育施設一覧

No.	施設名称	分類1	分類2	1号 認定	2号 認定	3号 認定	定員 (教育)	定員 (保育)	定員 (合計)
1	えほんの森	認定こども園	幼保連携型	○	○	○	15	75	90
2	さくら	認定こども園	幼保連携型	○	○	○	15	75	90
3	恵み野幼稚園	認定こども園	幼保連携型	○	○	○	105	86	191
4	柏学園ひまわり幼稚園	認定こども園	幼保連携型	○	○	○	180	79	259
5	恵庭幼稚園	認定こども園	幼保連携型	○	○	○	105	80	185
6	北海道文教大学附属幼稚園	認定こども園	幼保連携型	○	○	○	20	90	110
7	かしわ幼稚園	認定こども園	幼稚園型	○	○	○	120	86	206
8	クラーク幼稚園	認定こども園	幼稚園型	○	○	○	210	20	230
9	島松幼稚園	認定こども園	幼稚園型	○	○	○	65	20	85
10	第二かしわ幼稚園	認定こども園	幼稚園型	○	○	○	182	58	240
11	恵み野第二幼稚園	認定こども園	幼稚園型	○	○	○	89	51	140
12	幼稚園舎えるむ	認定こども園	保育所型	○	○	○	15	69	84
13	えにわスマイル保育園	認定こども園	保育所型	○	○	○	15	60	75
14	あいおい子ども園	認定こども園	保育所型	○	○	○	15	90	105
15	すみれ保育園	保育所	認可保育所		○	○	0	90	90
16	島松いちい保育園	保育所	認可保育所		○	○	0	90	90
17	恵庭保育園	保育所	地域型保育事業所			○	0	18	18
18	島松もみじ保育園	保育所	地域型保育事業所			○	0	19	19
19	しままつスマイル保育園	保育所	地域型保育事業所			○	0	19	19
20	びっころまっず	保育所	地域型保育事業所			○	0	7	7

表 1-2 認定こども園タイプ

タイプ	認定こども園タイプ			
	幼保連携型	幼稚園型	保育所型	地域裁量型
法的位置づけ	学校＋ 児童福祉施設	学校	児童福祉施設	——
機能	幼稚園と保育所の 両方の機能を持つ	既存の幼稚園に保 育機能を追加	既存の認可保育所 に幼稚園の機能を 追加	既存の認可外幼稚園・ 保育所などに認定こど も園の機能を追加
形態	認可幼稚園＋ 認可保育所	認可幼稚園＋ 認可外保育所	認可外幼稚園＋ 認可保育所	認可外幼稚園＋ 認可外保育所

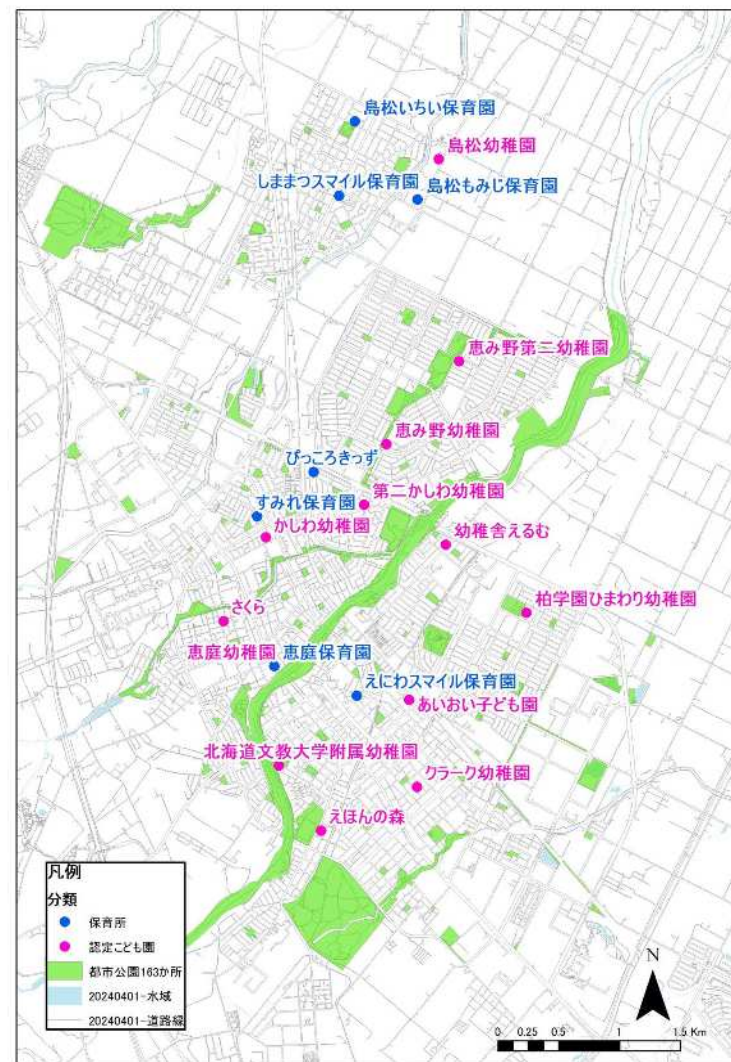


図 1-1 保育施設の分布

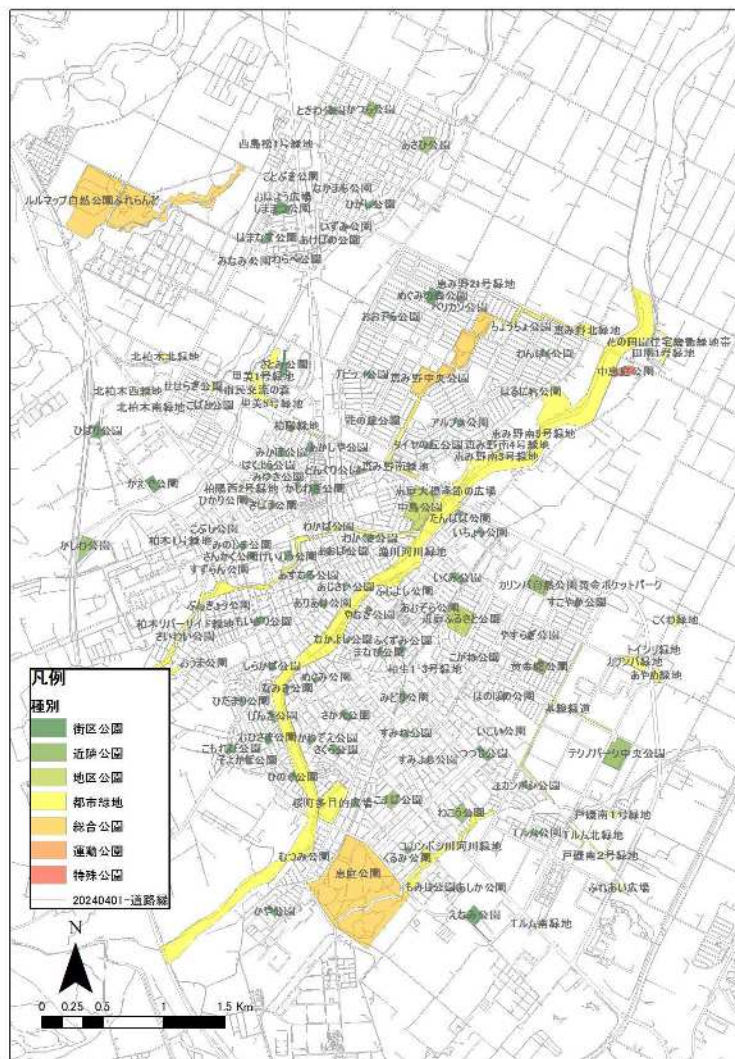


図 1-2 都市公園の分布

## 2. 研究結果① 都市公園の利用状況

### 2-1. アンケート調査と結果のまとめ方

恵庭市内にある 20 箇所の保育所・認定こども園（1 章 表 1-1）を対象とし、日常的な屋外活動の場として都市公園をどのように活用しているのかについてアンケート調査を行った。調査項目として日常的に利用している公園名、引率する幼児の年齢、利用頻度、移動手段、利用方法、公園施設等の改善が必要な点などについて回答を求めた。また、各保育施設周辺に立地する都市公園の分布マップを添付し、回答の際に活用いただくよう呼びかけた。対象施設への調査票の配布・回収は、恵庭市建設部公園緑地課、恵庭市子ども未来部幼児保育課にご協力をいただいた。

アンケート調査結果である都市公園の利用状況は、都市公園利用マップとして各保育施設別にまとめた。都市公園によって、屋外活動の場として利用する幼児の年齢に差異が見られたことから、「3 歳以上が利用する公園」、「3 歳未満が利用する公園」、ならびに前 2 項目を包摂する「多年齢が利用する公園」の 3 つの利用年齢区分により色分けを行った。結果を以下に述べる。

なお、表 1-1 に示した保育施設 No.5（恵庭幼稚園）と No.17（恵庭保育園）は同一の法人が運営しており、園舎は同一敷地内にあること、アンケート調査も 2 施設を統合する形で回答いただいていることから、No.17（恵庭保育園）は No.5（恵庭幼稚園）に含める形で集計したため、施設数は 19 箇所となっている。

## 2-2. 各保育施設の都市公園利用状況

各保育施設の調査結果は以下の通りである。

### 2-2-1. No.1 えほんの森（認定こども園）

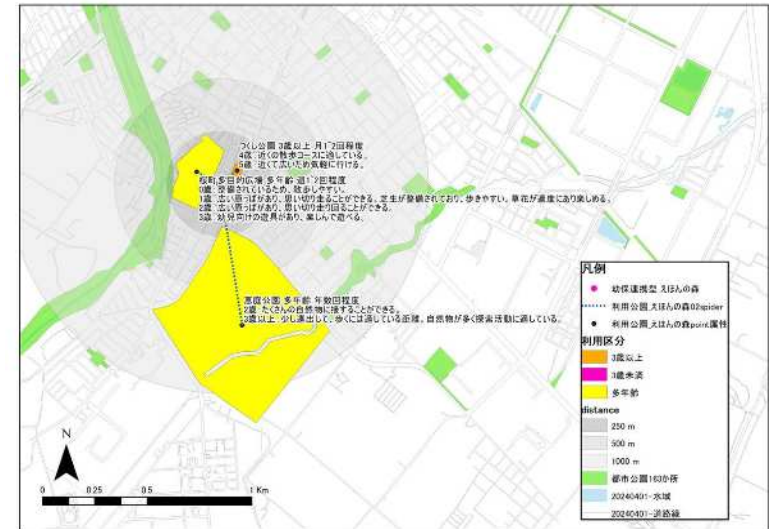


図 2-1 公園利用状況（えほんの森）

えほんの森（認定こども園）では3箇所の公園利用が確認された（図 2-1）。地域的な特徴として恵庭公園（総合公園、面積 40ha）、桜町多目的広場（都市緑地、面積 4.9ha）という面積規模の大きい都市公園が近接している特異な立地条件であり、0歳から3歳までの多年齢の幼児が利用している実態が見られた。桜町多目的広場（写真 2-1）はアンケート記述として「広い原っぱがあり、思い切り走ることができる。芝生が整備され

ており、歩きやすい。」等のコメントが確認された。

一方で恵庭公園（写真2-2）では「少し遠出して、歩くには適している距離。自然物が多く探索活動に適している。」等のコメントが見られ、公園敷地内の自然林に囲まれた園路を活用した活動が行われていた。一方でつくし公園（街区公園、面積0.25ha、写真2-3）は4歳・5歳の幼児の利用が確認され、「近くて広いため気軽に行ける。」等のコメントが確認された。



写真 2-1 桜町多目的広場



写真 2-2 恵庭公園



写真 2-3 つくし公園

2-2-2. No.2 さくら (認定こども園)

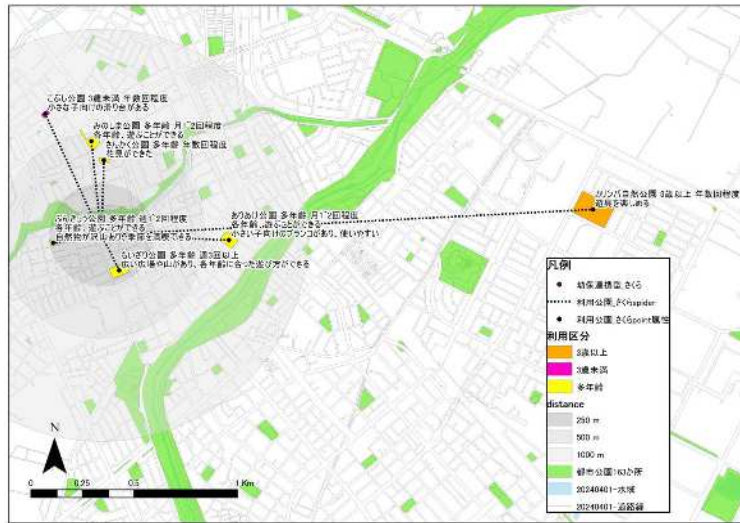


図 2-2 公園利用状況 (さくら)

さくら (認定こども園) では 7 箇所公園利用が確認された (図 2-2)。このうち 5 箇所 (もいざり公園、ぶんきょう公園、みのしま公園、ありあけ公園、さんかく公園) は多年齢の幼児が利用していた。中でももいざり公園は週 3 回以上の高頻度で利用されており、アンケート結果から「広い広場や山があり、各年齢に合った遊び方ができる」とのコメントが見られた。一方でこぶし公園は 3 歳未満の幼児が利用しており、アンケート結果から「小さな子向けの滑り台がある」ことが利用の促進につながっていた (写真 2-9)。

一方で保育施設からの距離がやや遠いためか利用頻度は年数回程度であった。またカリンバ自然公園 (写真 2-10) は 3 歳以上の利用が見られ、「遊具を楽しめる」とのコメントの通り、比較的大きなコンビネーション遊具があることが 3 歳以上の利用を促していると考えられる。



写真 2-4 もいざり公園



写真 2-5 ぶんきょう公園



写真 2-6 ののしま公園



写真 2-7 ありあけ公園



写真 2-8 さんかく公園



写真 2-9 こぶし公園



写真 2-10 カリンバ自然公園

2-2-3. No.3 恵み野幼稚園（認定こども園）

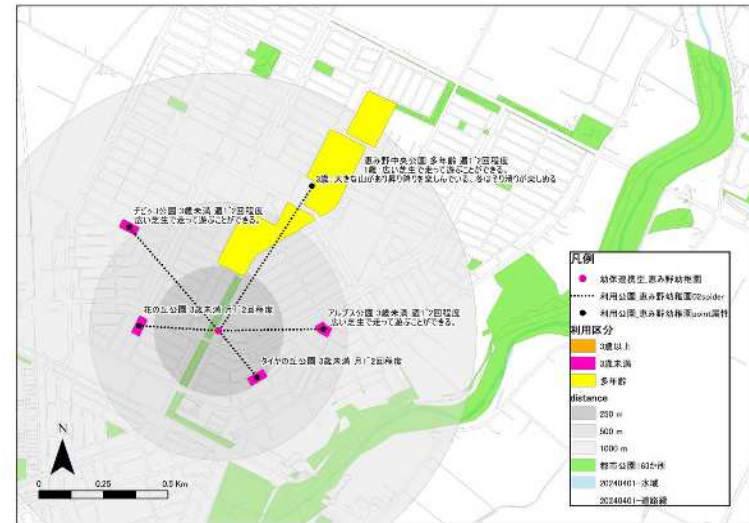


図 2-3 公園利用状況（恵み野幼稚園）

恵み野幼稚園（認定こども園）では5箇所の公園利用が見られた（図 2-3）。このうち1箇所は恵み野中央公園（総合公園、面積 11.1ha）で、多年齢の幼児が利用している状況が見られた。アンケート調査では「1歳：広い芝生で走って遊ぶことができる。3歳：大きな山があり昇り降りを楽しんでいる。」とのコメントが見られ、園内の広い芝生広場を活用した利用が行われていた。

そのほかの4箇所（チビッコ公園、アルプス公園、タイヤの丘公園、花の丘公園）の公園はいずれも保育施設から半径 500m 圏内にある面積 0.25ha 程度の街区公園であり、

いずれも3歳未満の幼児による利用が確認された。利用方法として、チビッコ公園ならびにアルプス公園で「広い芝生で走って遊ぶことができる。」とのコメントがあった一方で、公園への要望として「一歳児も遊べる遊具が欲しい」とのコメントが複数の公園で見られた。現地調査において、いずれの公園も芝生広場があることが確認され（写真2-11～写真2-15）、幼児にとって安全に利用できる状況であるものの、1歳児でも利用可能な固定遊具設置が望まれている。



写真 2-11 チビッコ公園



写真 2-12 アルプス公園



写真 2-13 恵み野中央公園



写真 2-14 タイヤの丘公園



写真 2-15 花の丘公園

2-2-4. No.4 柏学園ひまわり幼稚園（認定こども園）

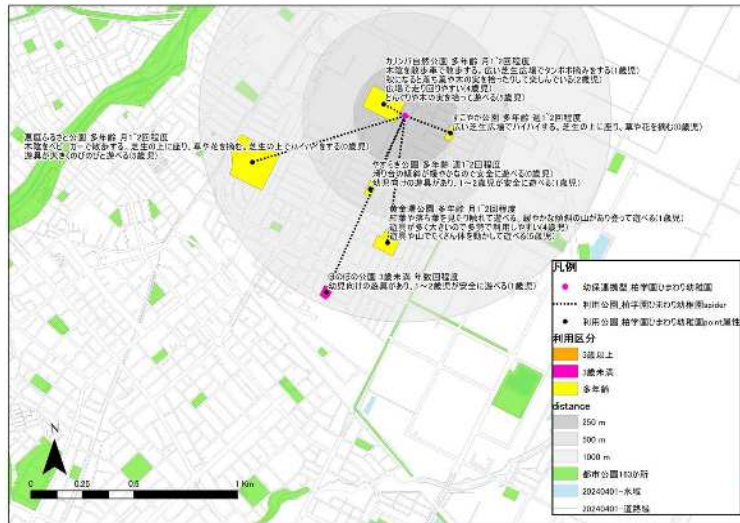


図 2-4 公園利用状況（柏学園ひまわり幼稚園）

柏学園ひまわり幼稚園（認定こども園）では6箇所の公園利用が見られた（図 2-4）。

このうち5箇所（カリンバ自然公園、すこやか公園、やすらぎ公園、黄金曙公園、恵庭ふるさと公園）はいずれも多年齢の幼児に利用されていた。もっとも近いカリンバ自然公園では「木陰を散歩車で散歩する。広い芝生広場でタンポポ摘みをする(1歳児)、秋になると落ち葉や木の実を拾ったりして楽しんでいる(2歳児)、広場で走り回りやすい(4歳児)、どんぐりや木の実を拾って遊べる(5歳児)」など、年齢に応じた多様な利用が見られた。

一方で1箇所の公園（ほのぼの公園、街区公園）は3歳未満の利用が見られた。「幼

児向けの遊具があり、1～2歳児が安全に遊べる」とのコメントが見られ、現地調査から写真 2-21 のような遊具があることが確認された。一方で利用頻度は「年数回程度」であり、保育施設から直線距離で 1Km 近く移動する必要がある。カリンバ自然公園では「唯一遊べていたスプリング遊具もなくなり、他の遊具は全て大きい子向けで遊べない」とのコメントがあり、近隣の公園の幼児向け遊具配置が低年齢幼児の公園利用促進につながると考えられる。



園利用を屋外活動の目的地にしているわけではなく、屋外活動を行う中で公園を利用することもあるという位置づけであるためと考えられる。公園利用として「広い空間があるため、集団ゲームしやすい」というコメントが複数の公園で見られた。



写真 2-22 えにわサイクルパーク



写真 2-23 もいざり公園



写真 2-24 ありあけ公園



写真 2-25 桜町多目的広場



写真 2-26 中島公園



写真 2-27 恵み野中央公園



写真 2-28 恵庭ふるさと公園



写真 2-29 しらかば公園



写真 2-30 恵庭公園

2-2-6. No.6 北海道文教大学附属幼稚園（認定こども園）

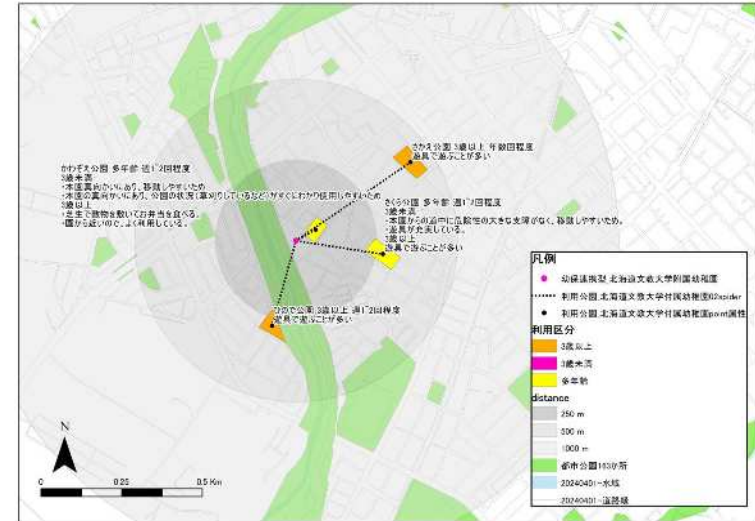


図 2-6 公園利用状況（北海道文教大学附属幼稚園）

北海道文教大学附属幼稚園（認定こども園）では4箇所（図2-6）の公園利用が見られた。このうち2箇所（写真2-31 かわぞえ公園、写真2-32 さくら公園）は比較的保育施設に近い立地であり、多年齢の幼児が利用している状況が確認された。特に当該保育施設に近接するかわぞえ公園においては、アンケート調査結果で「本園真向かいにあり、移動しやすい」、「公園の状況（草刈りしているなど）がすぐわかり使用しやすい」、「芝生で敷物を敷いてお弁当を食べる」など日常的に利用されている状況が見られた。

他の箇所の公園（写真2-33 ひので公園、写真2-34 さかえ公園）はいずれも3歳以上の幼児の利用が見られ、アンケート調査結果からいずれも「遊具で遊ぶことが多い」とのコメントが見られた。



写真 2-31 かわぞえ公園



写真 2-32 さくら公園

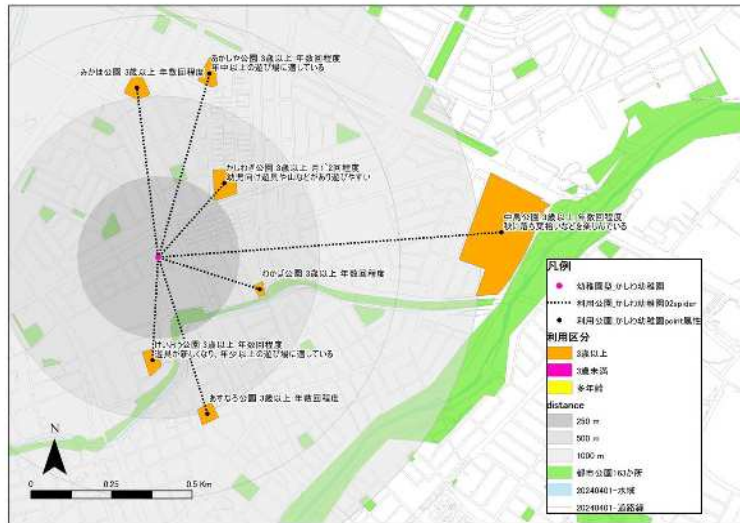


写真 2-33 ひので公園



写真 2-34 さかえ公園

2-2-7. No.7 かしわ幼稚園（認定こども園）



かしわ幼稚園（認定こども園）では7箇所の公園利用が見られた（図2-7、写真2-35～写真2-41）。当該保育施設は3号認定を受けており3歳未満の幼児も所属しているが、公園はいずれも3歳以上の幼児のみの利用が見られ、また公園の利用頻度も7箇所中1箇所が「月1～2回程度」、7箇所中6箇所が「年数回程度」と低頻度の利用状況であった。インタビュー調査の結果から、当該保育施設の専用庭（園庭）、ならびに近隣の系列校敷地にある専用庭を屋外活動の場として活用している状況が確認された。



写真 2-35 かしわぎ公園



写真 2-36 あかしや公園



写真 2-37 あすなる公園



写真 2-38 中島公園



写真 2-39 みかほ公園



写真 2-40 けいおう公園



写真 2-41 わかば公園

2-2-8. No.8 クラーク幼稚園（認定こども園）

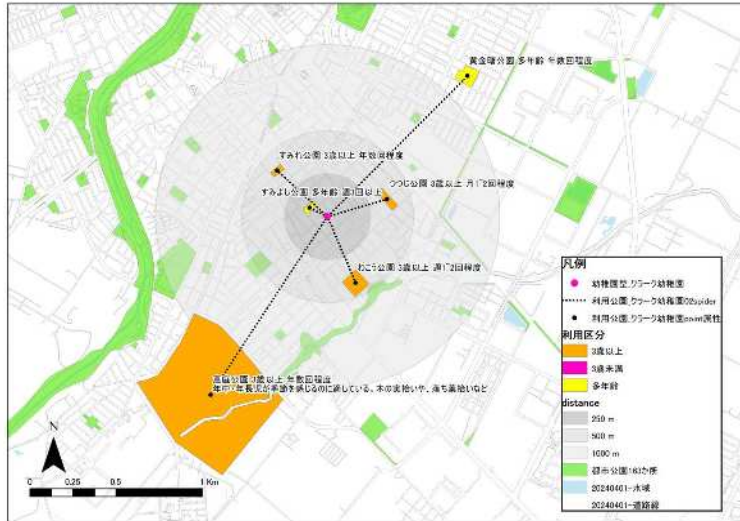


図 2-8 公園利用状況（クラーク幼稚園）

クラーク幼稚園（認定こども園）では6箇所の公園利用見られた（図2-8）。このうち2箇所（写真2-42 すみよし公園、写真2-46 黄金曙公園）の公園は多年齢の幼児による利用が見られた。中でも保育施設に近接するすみよし公園（街区公園）は「週3回以上」の高頻度で利用されていた。

一方で他の4箇所の公園（写真2-43 わこう公園、写真2-44 つつじ公園、写真2-45 恵庭公園、写真2-47 菫公園）はいずれも3歳以上の幼児利用が見られた。このうち「週1~2回程度」の頻度で利用されているわこう公園では、アンケート調査結果の改善が必要な点として「公園の敷地は広いが遊具が少ないように感じる」、「老朽

化で危険箇所がある」とのコメントがあった。現地調査の結果、当該公園内のコンビネーション遊具は老朽化が進んでおり、またスプリング遊具2基はいずれもブルーシートで覆われ使用不可の状態であった。



写真 2-42 すみよし公園



写真 2-43 わこう公園



写真 2-44 つつじ公園



写真 2-45 恵庭公園



写真 2-46 黄金曙公園



写真 2-47 すみれ公園

2-2-9. No.9 島松幼稚園（認定こども園）

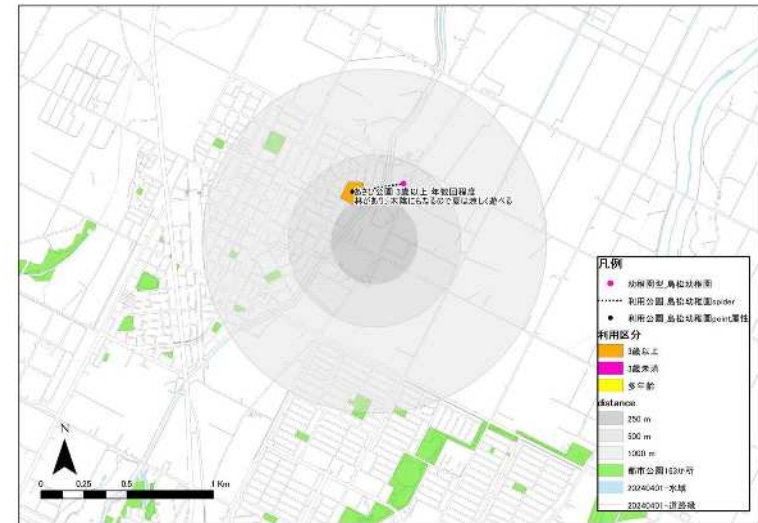


図 2-9 公園利用状況（島松幼稚園）

島松幼稚園（認定こども園）では1箇所のみ（写真 2-48 あさひ公園）の利用が見られた（図 2-9）。当該公園は園内に樹林地があり、3歳以上の幼児による利用が確認された。利用方法として「林があり、木陰にもなるので夏は涼しく遊べる」とのコメントが見られた。

なお、本研究の調査対象外ではあるが、当該保育施設の隣接敷地には施設運営者である寺院があり、日常的な園外活動の場として寺院の敷地を活用していることがインタビュー調査結果から確認された。



2-2-10. No.10 第二かしわ幼稚園（認定こども園）

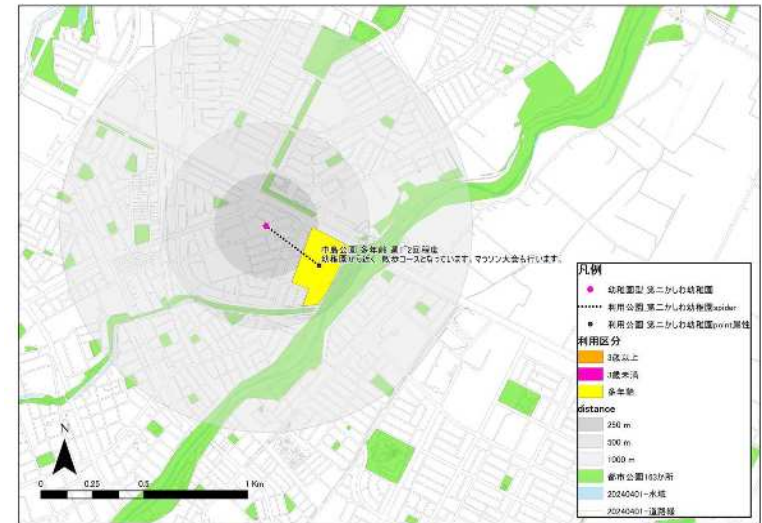


図 2-10 公園利用状況（第二かしわ幼稚園）

第二かしわ幼稚園（認定こども園）では1箇所（写真2-49 中島公園）の利用が見られた（図2-10）。当該公園は多年齢の園児により「週1～2回程度」利用されており、アンケート調査結果から利用状況として「幼稚園から近く散歩コースとなっています」、「マラソン大会も行います」とのコメントが見られた。

当該保育施設は市内に系列の認定こども園が複数設置されており、公園だけではなく法人で所有する専用庭を屋外活動の場として日常的に活用していることがインタビュー調査の結果から確認された。



2-2-11, No.11 恵み野第二幼稚園（認定こども園）

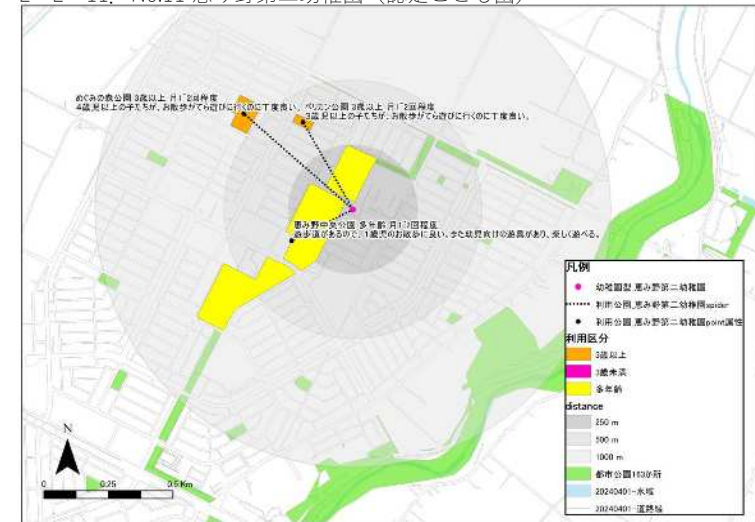


図 2-11 公園利用状況（恵み野第二幼稚園）

恵み野第二幼稚園（認定こども園）では3箇所（写真2-50 恵み野中央公園、写真2-51 ベリカン公園、写真2-52 めぐみの森公園）の公園利用が見られた（図2-11）。このうち恵み野中央公園（総合公園、面積11ha）は多年齢の幼児利用が見られ、アンケート調査結果では「遊歩道があるので、1歳児のお散歩に良い。また幼児向けの遊具があり、楽しく遊べる。」との多年齢の幼児が利用しやすい条件を有していることが確認された。

一方でベリカン公園（街区公園、面積0.25ha）、めぐみの森公園（街区公園、面積1.1ha）はいずれも3歳以上の利用が見られ、いずれも「お散歩がてら遊びに行くのに丁度良

い。」というコメントが見られた。



写真 2-50 恵み野中央公園



写真 2-51 ペリカン公園



写真 2-52 めぐみの森公園

2-2-12. No.12 幼稚舎えるむ（認定こども園）

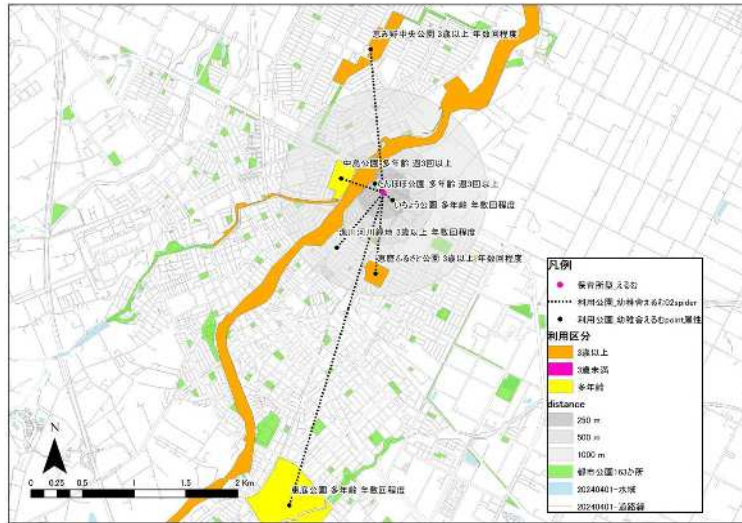


図 2-12 公園利用状況（幼稚舎えるむ）

幼稚舎えるむ（認定こども園）では7箇所の公園利用が見られた（図 2-12）。このうち4箇所の公園（写真 2-53 たんぼ公園、写真 2-54 中島公園、写真 2-56 恵庭公園、写真 2-58 いちょう公園）では多年齢の幼児利用が見られ、3箇所の公園（写真 2-55 恵庭ふるさと公園、写真 2-57 漁川河畔緑地、写真 2-59 恵み野中央公園）では3歳以上の利用が見られた。

利用頻度では、当該保育施設から距離的に近いたんぼ公園、中島公園の2箇所が「週3回以上」と高い頻度で利用されており、改善が必要な点としてたんぼ公園では

「バックネットが壊れていて危険。よしかかると倒れそう。」「使用禁止のテープが貼られており使用できない遊具が多くある。」とのコメントが、中島公園では「木の根で転倒することが多い。」とのコメントが見られた。



写真 2-53 たんぽぽ公園



写真 2-54 中島公園



写真 2-55 恵庭ふるさと公園



写真 2-56 恵庭公園



写真 2-57 漁川河川緑地



写真 2-58 いちょう公園



写真 2-59 恵み野中央公園

2-2-13. No.13 えにわスマイル保育園（認定こども園）

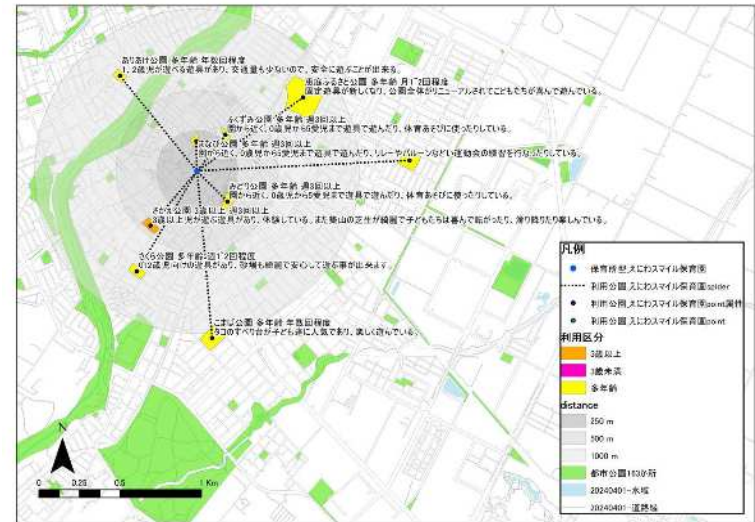


図 2-13 公園利用状況（えにわスマイル保育園）

えにわスマイルこども園（認定こども園）では9箇所の公園利用が見られた（図2-13）。このうち8箇所（写真2-60 まなび公園、写真2-61 ふくずみ公園、写真2-63 みどり公園、写真2-64 さくら公園、写真2-65 恵庭ふるさと公園、写真2-66 黄金曙公園、写真2-67 こまば公園、写真2-68 ありあけ公園）はいずれも多年齢の幼児に利用されていた。このうち、ふくずみ公園の利用状況として「園から近く、0歳児から5歳児まで遊具で遊んだり、体育あそびに使ったりしている」、こまば公園では「タコのすべり台が子ども達に人気であり、楽しく遊んでいる」などのコメントがアンケート調査結果から得られており、それぞれの公園の特徴を活用した公園利用が見られた。

一方でさかえ公園（写真 2-62）では 3 歳以上の利用が見られ、利用状況として「3 歳以上児が遊ぶ遊具があり、体験している。また築山の芝生が綺麗で子どもたちは喜んで転がったり、滑り降りたり楽しんでいる」とのコメントが確認された。



写真 2-60 まなび公園



写真 2-61 ふくずみ公園



写真 2-62 さかえ公園



写真 2-63 みどり公園



写真 2-64 さくら公園



写真 2-65 恵庭ふるさと公園



写真 2-66 黄金曙公園



写真 2-67 こまば公園



写真 2-68 ありあけ公園

2-2-14. No.14 あいおい子ども園（認定こども園）

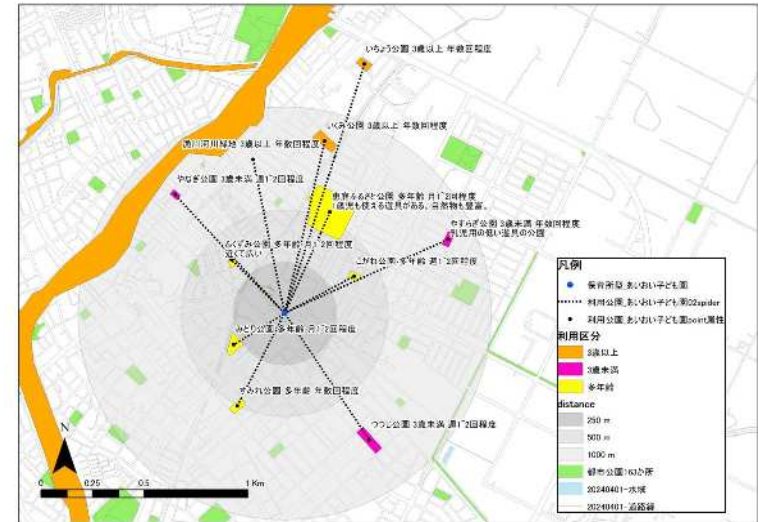


図 2-14 公園利用状況（あいおい子ども園）

あいおいこども園（認定こども園）では、11箇所の公園利用が確認され、保育施設から直線距離で1Km以上の場所にある公園の利用も見られた（図2-14）。このうち5箇所の公園（写真2-69 ふくずみ公園、写真2-70 みどり公園、写真2-71 こがね公園、写真2-72 恵庭ふるさと公園、写真2-73 すみれ公園）では多年齢の幼児利用が見られた。一方で3箇所の公園（写真2-75 いくみ公園、写真2-76 いちょう公園、写真2-77 漁川河川緑地）では3歳以上の幼児利用が、その他3箇所の公園（写真2-74 つつじ公園、写真2-78 やなぎ公園、写真2-79 やすらぎ公園）では3歳未満の幼児利用が見られ、年齢による公園の使い分けが行われていた。このうち利用状況として、多

年齢利用の恵庭ふるさと公園では「1歳児も使える遊具がある。自然物も豊富」というコメントが、3歳未満利用のやすらぎ公園では「児用の低い遊具の公園」というコメントがアンケート調査結果から確認された。



写真 2-69 ふくずみ公園



写真 2-70 みどり公園



写真 2-71 こがね公園



写真 2-72 恵庭ふるさと公園



写真 2-73 すみれ公園



写真 2-74 つつじ公園



写真 2-75 いくみ公園



写真 2-76 いちよう公園



写真 2-77 漁川河川緑地



写真 2-78 やなぎ公園



写真 2-79 やすらぎ公園

2-2-15. No.15 すみれ保育園（保育所）

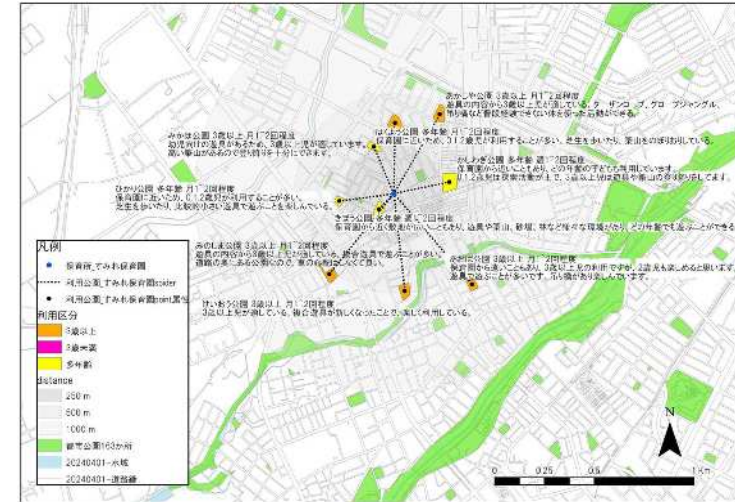


図 2-15 公園利用状況（すみれ保育園）

すみれ保育園（保育所）では9箇所の公園利用が見られた（図 2-15）。このうち4箇所の公園（写真 2-82 ひかり公園、写真 2-83 はくよう公園、写真 2-85 きぼう公園、写真 2-86 かわぎ公園）は多年齢の幼児に利用されており、その他5箇所の公園（写真 2-80 あかしや公園、写真 2-81 みのしま公園、写真 2-84 けいおう公園、写真 2-87 あおば公園、写真 2-88 みかほ公園）はいずれも3歳以上の幼児による公園利用が見られた。

アンケート調査結果から、多年齢に利用されているひかり公園では「保育園に近いため、0.1.2歳児が利用することが多い。芝生を歩いたり、比較的小さい遊具で遊ぶことを

楽しんでいる」、かしわぎ公園では「保育園から近いこともあり、どの年齢の子どもも利用しています。0.1.2歳児は探索活動が主で、3歳以上児は遊具や築山の登り降りをしています」とのコメントが見られた。また3歳以上に利用されているあかしや公園では「遊具の内容から3歳以上児が適している。ターザンロープ、グローブジャングル、吊り橋など普段経験できない体を使った活動ができる」、けいおう公園では「3歳以上児が適している。複合遊具が新しくなったことで、楽しく利用している」など、対象年齢に合わせた利用の選択が行われていた。



写真 2-80 あかしや公園



写真 2-81 みのしま公園



写真 2-82 ひかり公園



写真 2-83 はくよう公園



写真 2-84 けいおう公園



写真 2-85 きぼう公園



写真 2-86 かしわぎ公園



写真 2-87 あおば公園



写真 2-88 みかほ公園

2-2-16. No.16 島松いちい保育園（保育所）

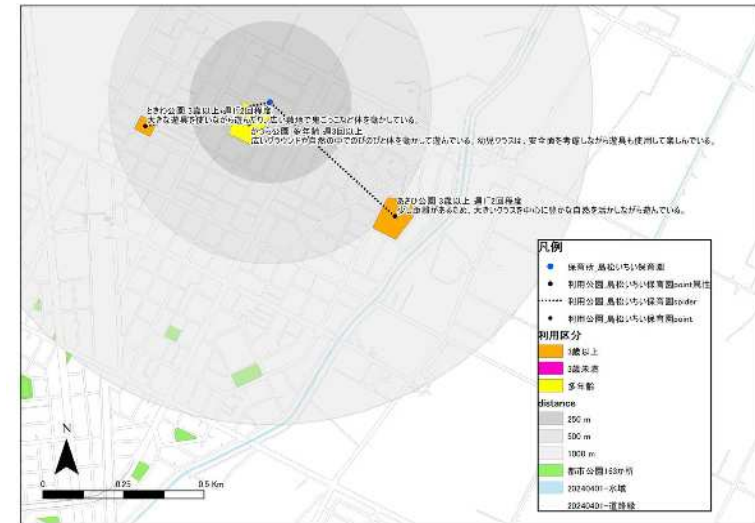


図 2-16 公園利用状況（島松いちい保育園）

島松いちい保育園（保育所）では、3箇所の公園利用が見られた（図2-16）。このうち、かつら公園（写真2-89、近隣公園、面積1ha）では多年齢の幼児による利用が、あさひ公園（写真2-90、近隣公園、面積1.1ha）ならびにときわ公園（写真2-91、街区公園、面積0.25ha）では3歳以上の幼児による利用が行われていた。

公園利用に関するコメントとして、多年齢利用のかつら公園では「広いグラウンドや自然の中でのびのびと体を動かして遊んでいる。幼児クラスは、安全面を考慮しながら遊具も使用して楽しんでいる」、3歳以上利用のあさひ公園では「少し距離があるため、大きいクラスを中心に豊かな自然を活かしながら遊んでいる」、同じく3歳以上

利用のときわ公園では「大きな遊具を使いながら遊んだり、広い敷地で鬼ごっこなど体を動かしている」とのコメントが見られた。



写真 2-89 かつら公園



写真 2-90 あさひ公園



写真 2-91 ときわ公園

2-2-17. No.18 島松もみじ保育園（地域型保育事業所）

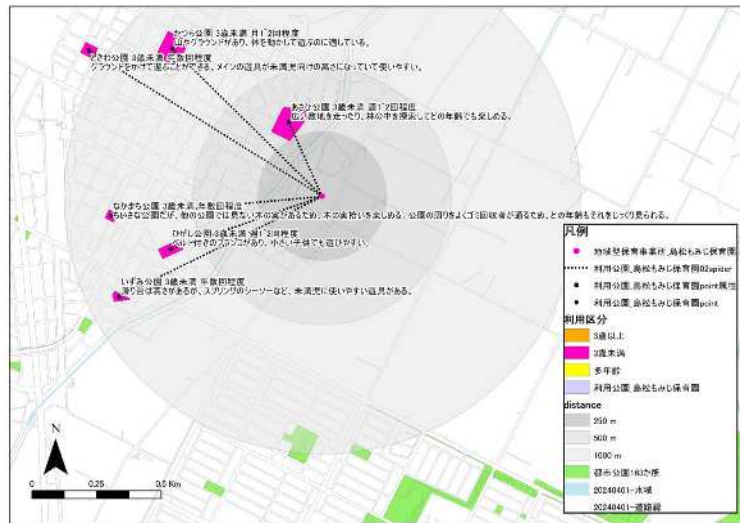


図 2-17 公園利用状況（島松もみじ保育園）

島松もみじ保育園（地域型保育事業所）では、6箇所の公園利用が見られた（図 2-17）。当該保育所は 3 号認定保育所であることから、利用年齢はいずれの公園も 3 歳未満であった。利用頻度としては写真 2-92 あさひ公園ならびに写真 2-93 ひがし公園が「週 1~2 回程度」であったのに対し、保育施設からやや遠い場所にある写真 2-94 かつら公園では「月 1~2 回程度」、写真 2-95 なかまち公園、写真 2-96 いずみ公園、写真 2-97 ときわ公園では「年数回程度」と距離が遠いほど利用頻度が低下する傾向が見られた。

アンケートから、利用状況としてひがし公園では「ベルト付きのブランコがあり、小さい子供でも遊びやすい」、なかまち公園では「ちいさな公園だが、他の公園では見ない木の実があるため、木の実拾いを楽しめる。公園の周りをよくゴミ回収者が通るため、どの年齢もそれをじっくり見られる」など、公園の特徴を生かした利用が見られた。



写真 2-92 あさひ公園



写真 2-93 ひがし公園



写真 2-94 かつら公園



写真 2-95 なかまち公園



写真 2-96 いずみ公園



写真 2-97 ときわ公園

2-2-18. No.19 しままつスマイル保育園 (地域型保育事業所)

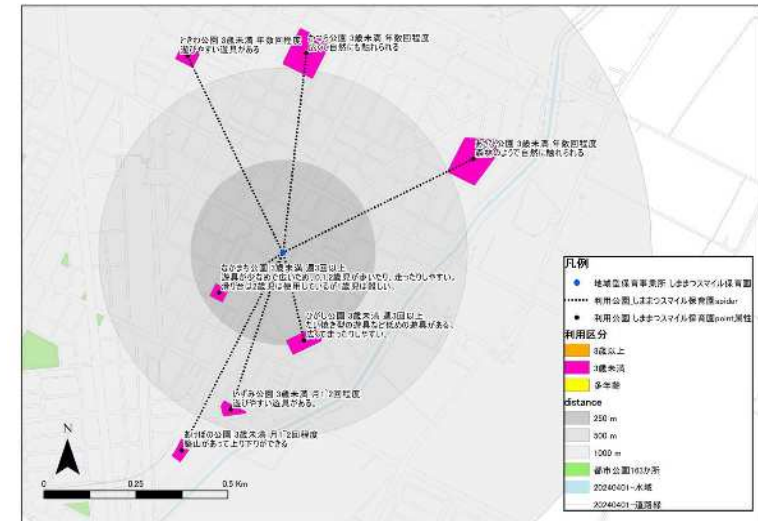


図 2-18 公園利用状況 (しままつスマイル保育園)

しままつスマイル保育所(地域型保育事業所)では7箇所の公園利用が見られた(図2-18)。当該保育所は3号認定保育所であることから、利用年齢はいずれの公園も3歳未満であった。利用頻度としては保育施設からの距離に近い写真2-98 なかまち公園、写真2-99 ひがし公園の2箇所が「週3回以上」の高頻度で利用されていた。これに対して、保育施設からやや遠い写真2-100 いずみ公園、写真2-101 あけぼの公園では「月1~2回程度」、同じく保育施設から直線距離で1Kmほど離れた写真2-102 かつら公園、写真2-103 あさひ公園、写真2-104 ときわ公園はいずれも「年数回程度」の利用であり、No.18の保育施設と同様に施設からの距離が利用頻度

に影響を与えていると考えられ、距離的に近い都市公園が幼児にとって使いやすい条件を備えているか否かが重要と考えられる。



写真 2-98 なかまち公園



写真 2-99 ひがし公園



写真 2-100 いずみ公園



写真 2-101 あけぼの公園



写真 2-102 かつら公園



写真 2-103 あさひ公園



写真 2-104 ときわ公園

2-2-19. No.20 ぴっころきっず（地域型保育事業所）

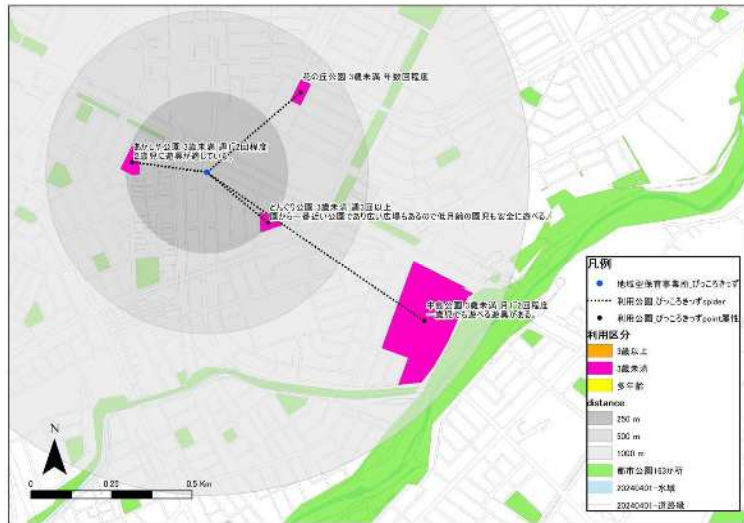


図 2-19 公園利用状況（ぴっころきっず）

ぴっころきっず(地域型保育事業所)では4箇所の公園利用が確認された(図2-20)。3号認定の保育施設であることから、いずれの公園も3歳未満の幼児利用が見られた。利用頻度では保育施設に近い写真2-105 どんぐり公園が「週3回以上」、同じく保育施設に近い写真2-106 あかしや公園が「週1~2回程度」と高い頻度で利用されていた。また保育施設から500m以上離れた写真2-108 中島公園は「月1~2回程度」であったのに対し、保育施設から500m圏内の写真2-107 花の丘公園は「年数回程度」であった。

アンケート調査結果から、花の丘公園の改善が必要な点として「前年度はよく利用し

ていたが、昨年末に公園の改装工事が行われ、公園内が新しくなった。が、公園周りの柵が無くなり、園児の飛び出しなど安全が守れなくなり使用しなくなった」とのコメントが見られ、距離的にはそれほど遠くないものの、施設更新によって3歳未満の幼児利用の安全に懸念が生じたことが、利用頻度の低下につながっていることが課題として確認された。



写真 2-105 どんぐり公園



写真 2-106 あかしゃ公園



写真 2-107 花の丘公園



写真 2-108 中島公園

### 3. 調査結果② 公園利用上の課題

保育施設へのアンケート調査（自由記述）において、保育施設周辺の都市公園の改善が必要な点について尋ねた結果、表 3-1 に示すような結果が得られた。改善が必要な項目として「施設の利便性」、「安全管理」、「衛生管理」、「植栽管理」、「施設老朽化」、「周辺環境」、「その他」の 7 項目が見られた（なお、1 件の記述で複数項目の要素を含む回答については、それぞれ該当項目にのべ数をカウントした）。

以下、項目別に結果を述べる。

表 3-1 指摘事項：改善が必要な点（アンケート調査結果）

公園名	利用区分	改善が必要な点（自由記述）	施設の利便性	安全管理	衛生管理	植栽管理	施設老朽化	周辺環境	その他
あかしや公園	3歳以上	複合遊具とグロージャングルが混れており安全を確保しなければいけない箇所が多いため、集団での遊具の利用では注意が必要。グロージャングル、ブランコの部分に水たまりができてることが多く水はけが悪い。	●	●					
あかしや公園	3歳未満	トイレについて園児が使用することはないが、一般の方が使用しているときに外から見えである。	●						
あけぼの公園	3歳未満	ジャングルがロープが小さい子には危ない。	●	●					
あまひ公園	3歳未満	林がある分、時期によっては蚊が多い。滑り台に登るのが2歳児の基準でやっとなでぐるぐら回しにくい。	●	●	●				
あまひ公園	3歳未満	虫が多い 遊具が大きい子向け	●		●				
あまひ公園	3歳以上	草が多いので、定期的に草の長さを刈ってほしい。		●					
ありあけ公園	多年齢	公園への途中、歩道がない箇所がある。							
アルプス公園	3歳未満	一歳児も遊べる遊具が欲しい	●						
いずみ公園	3歳未満	滑り台が高い。 小さい子が遊べるような遊具が欲しい。	●						
いずみ公園	3歳未満	園から距離があるため、時間配分に気をつけなければならない。						●	
えにわサイクルパーク	多年齢	トイレの開放時期が遅い	●						
かしわが公園	多年齢	敷地が広く、死角となる場所があり、安全確保に注意が必要です。まぼろ公園同様、カラスには気をつけなくてはなりません。カラスが散らかしたゴミが落ちていたりすることが多いです。	●	●	●				
かつら公園	3歳未満	遊具が大きい子向け	●						
かつら公園	多年齢	グラウンドを回っている道がデコボコしていて、歩行者が通りにくくなっている。	●						
かつら公園	3歳未満	すぐ近くに別の保育園があり、タイミングによっては利用人数が多くなる。						●	
カリンバ自然公園	多年齢	唯一遊べていたスプリング遊具もなくなり、他の遊具は全て大きい子向けで遊べない(1歳児) 横断した遊具が多い。跡があると困るので林の方へ入れない(4歳児) 遊具や滑り台が壊れたままで遊びにくい(5歳児)	●				●		
かわぞえ公園	多年齢	-よく利用するので、横断歩道があると助かる。 -ゴミが落ちていたり時が多い。			●			●	
まぼろ公園	多年齢	カラスが糞を作る時期になると、公園内を低く飛翔して飛ぶことがあり、注意が必要で、滑り台が高すぎて、落下した場合大きな怪我になる可能性がある。もう少し、安全に遊べる高さや遊具の物が望ましいです。	●	●					
けいおう公園	3歳以上	遊具が少ないことで、子ども達が集中してしまうため、他にも遊具があればいいです。	●						
こがね公園	多年齢	1歳児には遊具の難易度が高い。	●						
さかえ公園	3歳以上	公園内は安全であるが、周囲の道路は車が多く、危険なことが多いので配慮している。		●				●	
さくら公園	多年齢	- 例年カラスの死骸がある。 - 鳥の糞がある時があるため心配		●	●				
まくら公園	多年齢	隅々、犬の糞がある。			●				
まんかく公園	多年齢	草が伸びていることが多い。				●			
すこやか公園	多年齢	グロージャングルも危険なのと、新しい滑り台は難易度高、高い、両手でつかめないほど横揺れが強く遊べない(1歳児) 滑り台が急な急、滑り台を小さい子向けなものがあると嬉しい(2歳児)	●	●					
たんぼぼ公園	多年齢	バグネットが壊れていて危険。よしとかと倒れそう。 使用禁止のテープが貼られており使用できない遊具が多くある。遊具の予定や新しい遊具が入る予定はあるでしょうか。	●	●		●			
チビッコ公園	3歳未満	一歳児も遊べる遊具が欲しい	●						
つくし公園	3歳以上	ごみが多く落ちていたり。遊具の老朽化。			●		●		
ときわ公園	3歳以上	静かないブランコは新しい遊具になるのか?	●						
ときわ公園	3歳未満	円から距離があるため、時間配分に気をつけなければならない。ベンチに一般の方が落ちてタバコを吸っていることがある。		●					●
どんぐり公園	3歳未満	草刈りの頻度を増やしてほしい。 だんだんと山が削れているか山の下の雑草がむき出しになっていて危ない。雑草がない方が園児が安全に遊べる。 全体的に老朽化している。 カラスが糞することがあり危険。	●	●		●	●		
なかもち公園	3歳未満	滑り台が高い。 小さい子が遊べるような遊具が欲しい。	●						
なかもち公園	3歳未満	園が市役所支所であり、また砂場側と駐車場が近いので、子供を見守る際に注意が必要である。		●					●

表 3-1 指摘事項：改善が必要な点（アンケート調査結果）[前頁からのつづき]

公園名	利用区分	改善が必要な点（自由記述）	施設の利便性	安全管理	衛生管理	植栽管理	施設老朽化	周辺環境	その他
はくよう公園	多年齢	滑り台の降り口に砂場があるため、砂場で遊んでいる子と滑り降りる子がぶつかる危険がある。ブランコの係入防止機能がないと衝突の危険がある。	●	●					
ひがし公園	3歳未満	小さい子用のブランコをもうひとつつけてほしい。 遊具が大きい子向けで滑り台に行きたくても危険箇所があり、職員がたかさんいともでなければ使用できない。 タバコやゴミなどが落ちていたりすることがある。 今はたい焼き遊具にテープが貼られていて遊べない。	●	●	●				
ひがし公園	3歳未満	遊具の老朽化に伴い、2024年から使えない遊具が増えている。					●		
ひかり公園	多年齢	保育園に近いこともあり、0.1.2歳児が利用したいのですが、滑り台が長く使用は難しいです。他の公園もそうですが、0.1.2歳児が安心して使用できる低い複合遊具がいくつかの公園の中であつたと良いです。	●						
ふくずみ公園	多年齢	遊具が古くなり、とげが刺さることもある。		●				●	
ふくずみ公園	多年齢	遊具が多い。カラスがくる。横断歩道がなく1歳児には遊具の難易度が高い。	●	●		●			
ふんきょう公園	多年齢	遊具が大きい子向けなので、小さい子向けのものも欲しい	●						
ほのぼの公園	3歳未満	芝が刈られておらず、とても臭いが悪く1〜2歳児にとってはとても歩きにくい。壊れているのが、固まっている遊具の修復がなかなか終わらない(1歳児)	●			●			
まなび公園	多年齢	草の伸びているところがあり、走ることが出来ないこともある。				●			
みかは公園	3歳以上	築山は高すぎて降りる際は、勢いがつきすぎないように声をかけないと転倒する危険があります。複合遊具にブランコがついていますが、滑り台を遊べる子どもとぶつかる危険があるため、注意が必要です。		●					
みのしま公園	3歳以上	集まった場所にあることが利点であると同時に、小学生などが遊んでいて怪我をしても、周りに気づかれない。		●					
みのしま公園	多年齢	草が伸びていることが多い				●			
もいざり公園	多年齢	ゴミ（お菓子の袋・花火・ガラス等）がよく落ちていたりカラスの糞があることがある		●	●				
やすらぎ公園	多年齢	芝が刈られておらず、1〜2歳児にとっては歩きにくい場所が多々ある(1歳児)				●			
やすらぎ公園	3歳未満	車通りが多いイメージ						●	
わこう公園	3歳以上	公園の敷地が広いが遊具が少ないように感じる。老朽化で危険箇所がある	●						●
黄金塚公園	多年齢	遊具は全て大きい子向けで遊ぶことができない(1歳児)	●						
花の丘公園	3歳未満	前年度はよく利用していたが、昨年度に公園の改修工事が行われ、公園内が新しくなった。が、公園周りの草がなくなり、園児の飛び出しなど安全が守れなくなり使用しなくなった。	●	●					
取手野中央公園	多年齢	一歳児も遊べる遊具が欲しい 山の側に大きな池があるが、橋がないため落ちないか心配	●	●					
黒砥ふるさと公園	多年齢	遊具は全て大きい子向けで遊ぶことができない(0歳児)	●						
車庫公園	多年齢	トイレが使いにくい。	●						
中島公園	多年齢	木の根で転倒することが多い。		●		●			
中島公園	3歳未満	山が急である。		●					

### 3-1. 施設の利便性

施設の利便性は、のべ 33 件の記述があった。下記のような意見が見られた。

#### 【幼児向け固定遊具に関する意見】

- ・ 「一歳児も遊べる遊具が欲しい」(アルプス公園)
- ・ 「滑り台が高い。小さい子が遊べるような遊具が欲しい」(いずみ公園)
- ・ 「唯一遊べていたスプリング遊具もなくなり、他の遊具は全て大きい子向けで遊べない(1 歳児)」(カリンバ自然公園)
- ・ 「滑り台が急な為、滑り台を小さい子向けなものがあると嬉しい(2 歳児)」(すこやか公園)
- ・ 「保育園に近いこともあり、0.1.2 歳児が利用したいのですが、滑り台が高く使用は難しいです。他の公園もそうですが、0.1.2 歳児が安心して使用できる低い複合遊具がいくつかの公園の中で一つあると良いです」(ひかり公園)
- ・ 「小さい子が遊べるような遊具が欲しい」(なかまち公園)
- ・ 「1 歳児には遊具の難易度が高い」(ふくずみ公園)
- ・ 「遊具は全て大きい子向けで遊ぶことができない(1 歳児)」(黄金曙公園)

#### 【遊具設置数に関する意見】

- ・ 「遊具が少ないことで、子ども達が集中してしまうため、他にも遊具があればいい

です」(けいおう公園)

- ・ 「小さい子用のブランコをもうひとつつけてほしい」(ひがし公園)

#### 【遊具使用禁止に関する意見】

- ・ 「今はたい焼き遊具にテープが貼られていて遊べない」(ひがし公園)
- ・ 「壊れている為か、囲われている遊具の修復がなかなか終わらない(1 歳児)」(ほのぼの公園)

#### 【その他の意見】

- ・ 「グラウンドを囲っている道がデコボコしていて、歩行車が通りにくくなっている」(かつら公園)
- ・ 「トイレが使いにくい」(恵庭公園)

全体として幼児向け固定遊具に関する意見が多く見られた。特に 1、2 歳児が安全に利用できる大きさ・形状の遊具設置に関する要望が多く見られた。現地調査結果においても、幼児向け遊具の設置されている都市公園は限定的であることが確認された。また保育施設の園外活動として公園を利用する場合、親子連れなどの一般利用者とは異なり保育士や教諭が複数の幼児を引率して利用するため、利用する遊具の設置数が不足しがちであることが意見として見られた。また公園によっては固定遊具が一部破損し、安全管理のため使用禁止のテープが貼られている状況が見かけられるが、園外活動で公園を

利用した際に使用不可の状況であったとの報告が見られた。その他、園路に凹凸があり散歩車で移動しにくい等の意見が見られた。

### 3-2. 安全管理

安全管理については、のべ25件の記述があった。下記のような意見が見られた。

#### 【遊具同士の配置に関する意見】

- ・ 「複合遊具とグローブジャングルが離れており安全を確保しなければいけない箇所が多いため、集団での園児の利用では注意が必要」(あかしや公園)
- ・ 「複合遊具にブランコがついていますが、周りを通過する子どもとぶつかる危険があるため、注意が必要です」(みかほ公園)
- ・ 「滑り台の降り口に砂場があるため、砂場で遊んでいる子と滑り降りる子がぶつかる危険がある。ブランコの侵入防止柵がないと衝突の危険がある」(はくよう公園)



写真 3-1 遊具同士の距離が遠い



写真 3-2 ブランコの複合遊具

出典：Google Map



#### 【遊具等の高さに関する意見】

写真 3-3 みかほ公園 (2014年)

- ・ 「滑り台が高すぎて、落下した場合大きな怪我になる可能性がある。もう少し、安全に遊べる低さや遊具の物が望ましいです」(きぼう公園)
- ・ 「新しい滑り台は傾斜が急、高い、両手でつかめないほど横幅が広く遊べない(1歳児)」(すこやか公園)
- ・ 「遊具が大きい子向けで滑り台に行きたくても危険箇所があり、職員がたくさんいるときでなければ使用できない」(ひがし公園)
- ・ 「築山は高すぎて降りる際は、勢いがつきすぎないように声をかけないと転倒する危険があります」(みかほ公園)
- ・ 「だんだんと山が削れているのか山の下縁石がむき出しになっていて危ない。縁石がない方が園児が安全に遊べる」(どんぐり公園)

#### 【鳥・虫に関する意見】

- ・ 「蜂が多いので、定期的に蜂の巣の点検をしてほしい」(あさひ公園)
- ・ 「カラスが巣を作る時期になると、公園内を低く威嚇して飛ぶことがあり、注意が



一方で敷地の外周部に関する意見として、公園施設の改修によって外周部が金属製の柵から外柵石に変更になったことにより、幼児が車道へ飛び出す危険性が高まったことを理由として公園の利用をやめたとの意見があった(写真3-6、写真3-7 花の丘公園)。

また、保育施設へのインタビュー調査により確認された公園の安全管理に関する意見として、公園入口にある金属製の車止めに小鳥をかたどったオブジェが設置されており、幼児が公園を利用した際に車止めの近くで転倒してしまい、小鳥のオブジェに目をぶつけてケガをする事故があったことが確認された(写真3-8)。幼児が日常的に利用する公園の施設は、今後危険性の少ない製品へ更新する必要があるのではないかと考えられる。



写真3-8 公園入り口の車止め

### 3-3. 衛生管理

衛生管理については、のべ10件の記述があった。下記のような意見が見られた。

- ・ 「林がある分、時期によっては蚊が多い」(あさひ公園)
- ・ 「時々、犬の糞がある」(さくら公園)
- ・ 「ゴミが落ちている時が多い」(かわぞえ公園)
- ・ 「カラスが散らかしたゴミが落ちていることが多いです」(かしわざ公園)

意見として、時期によって蚊が多いことや、犬の糞やゴミが落ちていることが指摘されていた。

### 3-4. 植栽管理

植栽管理については、のべ8件の記述があった。下記のような意見が見られた。

- ・ 「草が伸びていることが多い」(さんかく公園)
- ・ 「芝が刈られておらず、とても長い草があり1~2歳児にとってはとても歩きにくい」(ほのぼの公園)
- ・ 「草がのびていることがあり、走ることが出来ないこともある」(まなび公園)
- ・ 「草が伸びていることが多い」(みのしま公園)
- ・ 「芝が刈られておらず、1~2歳児にとっては歩きにくい時が多々ある(1歳児)」(やすらぎ公園)
- ・ 「木の根で転倒することが多い」(中島公園)

多くは公園敷地内の芝生管理が不十分で、幼児が歩きにくいとの意見であった。一方で木の根で転倒することが多いとの意見も見られ、確認の必要があると考えられた。

### 3-5. 施設老朽化

施設老朽化については、のべ8件の記述があった。下記のような意見が見られた。

- ・ 「遊具が古くなり、とげが刺さることもある」(ふくずみ公園)
- ・ 「使用禁止のテープが貼られており使用できない遊具が多くある。撤去の予定や新しい遊具が入る予定はあるでしょうか。」(たんぼぼ公園)
- ・ 「遊具や滑り台が壊れたままで遊びにくい(5歳児)」(カリンバ自然公園)
- ・ 「遊具の老朽化に伴い、2024年から使えない遊具が増えている」(ひがし公園)
- ・ 「老朽化で危険箇所がある」(わこう公園)

施設老朽化では、公園の遊具に関する意見が多く見られた。更新時期を迎えている公園施設も少なからずあると考えられ、管理者である恵庭市で計画的な改修が進められていると思われる。一方で、更新の予定があるのかどうか問う意見も見られており、計画の見通しが立った時点でどの公園の改修を進めていくのか、市民に広く周知する必要も

あるのではないかと考えられる。

### 3-6. 周辺環境

周辺環境については、のべ7件の記述があった。下記のような意見が見られた。

- ・ 「公園への道中、歩道がない箇所がある」(ありあけ公園)
- ・ 「公園内は安全であるが、周囲の道路は車が多く、危険なことが多いので留意している」(さかえ公園)
- ・ 「車通りが多い」(やすらぎ公園)
- ・ 「すぐ近くに別の保育園があり、タイミングによっては利用人数がとて多くなる」(かつら公園)

周辺環境に関する意見として、目的地とする公園までの移動経路における車の安全性を懸念する意見が複数件見られた。また、近隣の保育施設と公園利用がバッティングし人数が多くなるとの意見があった。

### 3-7. その他

その他の事項について、のべ3件の記述があった。下記のような意見が見られた。

- ・ 「園から距離があるため、時間配分に気をつけなければならない」（いずみ公園）

#### 4. 調査・研究のまとめと提言

本研究は、恵庭市内の保育所、認定こども園、ならびに地域型保育事業所（以下、「保育施設」と称する）が、園外活動の場としてどのように都市公園を利用しているのかを明らかにすることを目的に調査・研究を行った。特に保育施設の園外活動の場としての公園利用において、引率する保育士を対象とした調査を通じ、利用者である幼児の年齢と必要とされる公園施設等との対応関係について解明を試みた。

研究成果、ならびに成果を踏まえた今後の都市公園のあり方について以下に述べる。

- ・ 調査の結果、恵庭市内 20 箇所の保育施設（認定こども園 14 箇所、保育所 6 箇所）から有効回答が得られた。
- ・ 現地調査の結果、恵庭市内の公園は街区公園の多くが面積 0.25ha 以上であり、広い敷地を有していること、多くの公園に地域組織が管理する花壇や公衆トイレが設置されていることなどが特徴として確認された。また独創的なデザインの遊具も数多く設置されている点も恵庭市ならではの特徴と考えられる。一方で、公園施設の老朽化が顕在化している状況も確認され、少子高齢化を背景に今後どのような公園整備・公園管理を行っていくのか検討を進める必要がある。
- ・ アンケート調査結果から、幼児向けの遊具を保育施設の近くに立地する公園内に設

置してもらいたいとの意見が多く見られた。保育施設周辺に幼児向け遊具がないことから、やや遠い場所にある幼児向け遊具が設置されている公園を利用している保育施設も見られた。保育施設の近くに立地する公園は、定常的に幼児による利用ニーズがあることが想定される。よって、保育施設に立地的に近い都市公園の施設改修にあたっては、幼児向け遊具の設置を検討すべきではないかと考えられる。

- ・ 上記の幼児向け遊具設置の検討にあたっては、市内の都市公園分布状況、ならびに保育施設分布状況を俯瞰的に把握した上で、一定の間隔・圏域で幼児向け遊具を設置していく方法も検討すべきと考えられる。
- ・ 3号認定の地域型保育事業所では、保育施設と都市公園との距離が近いほど利用頻度が高く、距離が遠いほど利用頻度が低い傾向が比較的明確に現れた。したがって、3歳未満の幼児が入所する保育施設に近接する都市公園においては、3歳未満の幼児が安全に利用できる固定遊具等が設置されているか、老朽化が進んでいないかどうか確認を進めるとともに、未設置の都市公園では今後新設を検討する必要がある。
- ・ 供用後、年数が経過して更新時期を迎えている公園施設が少なからず存在しており、管理者である恵庭市で計画的な改修が進められている。しかしながら、利用者の視点に立てばそもそも施設更新が計画されているのかどうかも不明な状況にあると調査結果から推察される。特に固定遊具の更新が決定されているのであれば、公園管

理者から市民に対して、改修の時期や内容に関する情報共有を進めるべきではないかと考えられる。

- ・ 保育施設へのインタビュー調査の中で、敷地内の車止めに小鳥をかたどったオブジェが設置された公園において、幼児が転倒した際に目をぶつけてケガをする事故が発生していたことが確認された。公園における幼児の事故防止に向け、子どもの視線の高さを考慮した安全点検を進めていく必要がある。
- ・ 保育施設の園外活動として公園を利用する場合、親子連れなどの一般利用者とは異なり保育士や教諭が複数の幼児を引率して利用するため、利用する遊具の設置数が不足しがちであることが確認された。保育施設の園外活動は保育士・教諭が引率する団体利用であり、一定規模以上の幼児が同時に利用する状況が想定される。したがって、幼児の在籍人数が多い保育施設に近接する都市公園においては、単位公園当たりの固定遊具基数をやや多めにする点も検討する必要があるのではないかと考えられる。
- ・ 国交省の掲げる公園施設長寿命化計画に基づき、公園施設は耐用年数の長い素材・形状への更新が進められる中で、施設の更新にともない公園外周部に使用される金属製の柵は外柵石への変更が進められている。その結果、公園を利用する幼児が道路へ飛び出すリスクが増大することが懸念される。本研究の調査結果においても、

敷地境界にあった金属製の柵が外柵石に変更されたことで、幼児が車道へ飛び出す危険性が高まったことを理由に当該公園の利用をやめた保育施設が見られた。公園施設全体としては施設の長寿命化を進める必要がある一方で、特に年齢の低い（3歳未満の）幼児利用が想定される公園においては、事故防止を最優先に考えた公園施設の更新についても検討を進めるべきであろう。

- ・ 保育施設によっては公園の砂場を幼児が利用する場合もあるが、P54 なかまち公園（写真3-4）のように公園敷地に隣接する土地が駐車場として利用され、すぐ近くに砂場が設置されている公園があることが確認された。公園利用者の安全確保は、公園敷地内のみならず周辺環境の条件も加味して対策を検討することが望まれる。

## 5. 謝辞

本研究を行うにあたり、恵庭市内の認定こども園14箇所、保育所6箇所の職員の方々に日常業務でご多忙の中、アンケート調査、インタビュー調査に多大なご協力をいただいた。また恵庭市建設部公園緑地課、ならびに恵庭市子ども未来部幼児保育課の方々には調査実施にあたり関係事業所への連絡・調整、データ提供等多大なお力添えをいただいた。ここに謝意を表します。

また調査実施にあたって、ゼミ学生の藤井礼恩さんに協力をいただきました。ここに謝意を表します。藤井さんは卒業研究テーマとしても今回の調査結果をまとめられ、成果物として作成したポスターは幼児の利用に配慮した公園デザインを図解したものであり、本報告書の補足資料として別途添付します。